

# 聖マリア学院大学

令和7年度 大学機関別認証評価  
評価報告書

令和8年3月

公益財団法人 日本高等教育評価機構



## 聖マリア学院大学

### I 評価結果

#### 【判定】

評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。

### II 総評

各基準の評価、大学が設定した独自基準、大学が挙げた特記事項は以下のとおりである。

#### 各基準の評価

基準 1. 使命・目的	満たしている
基準 2. 内部質保証	満たしている
基準 3. 学生	満たしている
基準 4. 教育課程	満たしている
基準 5. 教員・職員	満たしている
基準 6. 経営・管理と財務	満たしている

#### 独自基準

基準 A. 社会貢献・社会との連携
基準 B. 国際交流

#### 特記事項

1. カトリック大学としての看護大学—ローマ教皇庁との連携
2. ロイ適応看護モデルと Roy Academia Nursology Research Center の活動
3. 臨床と大学の協働・連帯により学生の看護実践能力を育成する教育方法の試み

### III 基準ごとの評価

#### 基準 1. 使命・目的

#### 【評価】

基準 1 を満たしている。

1-1. 使命・目的及び教育研究上の目的の反映	満たしている
-------------------------	--------

#### 【理由】

大学は、建学の精神「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行うため、使命・目的及び教育研究上の目的を学則に定め、ホームページ、学生便覧、大学広報誌等に明示



## 聖マリア学院大学

し、オリエンテーション、授業、教職員への研修会等で周知している。使命・目的及び教育研究上の目的は、令和 7(2025)年からの「第五次 5 年計画」に反映している。学部・研究科のディプロマ・ポリシーは、建学の精神、教育理念等に沿って設定し、ディプロマ・ポリシーの実現を図るためカリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを設定している。看護学部看護学科、看護学研究科、専攻科助産学専攻のほか、教育研究の充実を図るために研究所を設置している。「教学マネジメント会議」、教授会等が中心となり、カリキュラム改正等の検討を行い、保健・医療・福祉分野の変化、国家資格に関する規則の改正等の変化に対応している。

### 〈優れた点〉

○建学の精神に基づく大学の個性・特色について、学生に対してはオリエンテーション、授業、学校行事等を通して一貫して説明するとともに、教職員には研修会を継続的に実施するなど、理解を促す取組みは評価できる。

## 基準 2. 内部質保証

### 【評価】

基準 2 を満たしている。

2-1. 内部質保証の組織体制	満たしている
2-2. 内部質保証のための自己点検・評価	満たしている
2-3. 内部質保証の機能性	満たしている

### 【理由】

「聖マリア学院大学内部質保証の方針」「聖マリア学院大学内部質保証のための組織図・手順」を策定している。「自己点検・評価総括委員会」が大学全体の内部質保証を推進させる役割及び責任を担っている。

毎年度、中期計画取組み状況評価、アセスメント・ポリシーに基づく評価、ガバナンスコード遵守状況評価等の項目を定め、自己点検・評価を行い、報告書を作成している。「IR・SD 推進本部」を設置し、委員会等と分担して各種調査及びデータの収集・分析を実施している。

大学は、各種調査及び教員による学生面談を行い、意見・要望を聴取し、三つのポリシーを起点とした教育研究の改善につなげている。また、保護者との教育懇談会、地元の地方公共団体や産業界の関係者が委員として参画する「外部評価委員会」における学外関係者からの客観的意見を改善に活用する体制を整えている。自己点検・評価、認証評価等の結果は、中期計画及び単年度の事業計画に反映させている。自己点検・評価報告書は、ホームページで公表し、教職員・学生にも周知している。「自己点検・評価総括委員会」が内部質保証の推進を担い、PDCA サイクルが機能している。

## 基準 3. 学生

**【評価】**

基準 3 を満たしている。

3-1. 学生の受入れ	満たしている
3-2. 学修支援	満たしている
3-3. キャリア支援	満たしている
3-4. 学生サービス	満たしている
3-5. 学修環境の整備	満たしている

**【理由】**

アドミッション・ポリシーは建学の精神や教育目的等に基づき定められ、大学案内・入試案内・ホームページなどで周知を行っている。また、多様な入学者選抜方法を設け、入試運営会議において確認・検討をしている。

学生支援センターを設置し、教職協働で学修支援体制を整備している。チューター制やオフィスアワーを整備している。また、合理的配慮が必要な場合や休学中の学生などについては、教職員間で情報を共有の上、対応を行っている。

キャリア教育として年次ごとに教育課程を整備し、就職だけでなく、大学院・専攻科などへの進学者を一定数送り出しており、人材育成が行われている。学生支援センターキャリア支援部門が進路相談や履歴書添削などの支援を行う体制を整備している。

学生生活上の支援を行うため保健室や学生相談室などを設置し、対応を行っている。また、学生の情報については学内支援組織で共有する体制を整えている。学生による自治組織である学年運営委員会が教職員組織と連携し、学生生活の充実を図るための活動をしている。

校舎は七つの建物で構成され、車椅子移動が可能なようにスロープを設置するなどバリアフリーに対応している。全館が無線 LAN 環境であり、図書館は個人学修室の設置など学修環境を整備している。また、全ての建物において耐震基準を満たしている。

**〈参考意見〉**

○看護学部看護学科の収容定員充足率が低いものの、SNS などの活用によるフォロワー数の増加や入学者選抜方法の変更等の取組みが行われていることから、その成果に期待したい。

**基準 4. 教育課程**

**【評価】**

基準 4 を満たしている。

4-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	満たしている
---------------------	--------

4-2. 教育課程及び教授方法	満たしている
4-3. 学修成果の把握・評価	満たしている

**【理由】**

ディプロマ・ポリシーは学位プログラムごとに定められ周知されている。進級基準、卒業認定基準などは、大学学則及び大学院学則、「科目の履修および進級に関する規程」に適切に定められ、学生には「履修の手引き・SYLLABUS 授業概要」やガイダンスにて周知している。進級及び卒業判定は、「教育の質向上委員会」及び教授会の審議を経て学長が決定している。

カリキュラム・ポリシーは学位プログラムごとに定められ周知されている。ディプロマ・ポリシーとの一貫性はカリキュラムマップ、カリキュラム概念図に明示し、体系的な教育課程を編成している。教養教育は、「カトリックの愛の精神を基盤とした看護専門職者になるためのカリキュラム検討会」などで審議を経て実施されている。実習教育では教育モデル病棟を構築するなど教育効果を高めるための教授方法の工夫がされている。

三つのポリシーを踏まえた学修成果については、アセスメント・プランの内容を含んだアセスメント・ポリシーを作成し、多様な尺度・指標や測定方法に基づいて把握・評価している。把握・評価した結果は、学生や教職員にフィードバックし、教育内容や方法、学修指導の改善に活用している。

**〈参考意見〉**

○単位について、「履修の手引き・SYLLABUS 授業概要」等で定められているとおりに単位認定されていない科目があるため、規則の厳正な適用が望まれる。

**基準 5. 教員・職員**

**【評価】**

基準 5 を満たしている。

5-1. 教育研究活動のための管理運営の機能性	満たしている
5-2. 教員の配置	満たしている
5-3. 教員・職員の研修・職能開発	満たしている
5-4. 研究支援	満たしている

**【理由】**

「学校法人聖マリア学院組織規程」に基づき、学長がリーダーシップを適切に発揮できる体制を整備している。使命・目的の達成に向けた大学の意思決定の権限と責任は明確であり、教授会について、その位置付けと役割を明確化し、機能している。

「学校法人聖マリア学院事務分掌規程」に基づき、職員の役割は明確であり、職員の採用・昇任の方針等を定め、教学マネジメントの遂行に必要な人員を適切かつ効果的に配置

している。

大学及び大学院設置基準において求められる必要教員数を充足し、教育課程に即して適切に配置している。教員の採用・昇任については、基準等を定め、適切に運用している。

FDは、「教育の質向上委員会」を中心に、教員の教育研究能力の向上を目的として、SDは、「IR・SD推進本部」を中心に研修を計画的かつ体系的に実施し、実施結果を踏まえた見直し、改善を図っている。

講師以上の専任教員に対しては個室の研究室を配置し、研究活動の時間確保への配慮など、快適な研究環境を整備している。研究倫理に関する規則に基づき、厳正に運用している。科学研究費助成事業を中心に全学的に外部資金導入の努力を行っている。

## 基準 6. 経営・管理と財務

### 【評価】

基準 6 を満たしている。

6-1. 経営の規律と誠実性	満たしている
6-2. 理事会の機能	満たしている
6-3. 管理運営の円滑化とチェック機能	満たしている
6-4. 財務基盤と収支	満たしている
6-5. 会計	満たしている

### 【理由】

寄附行為等に基づき、法人業務の適切な運営に努め、内部統制システムの整備により法人業務の適正を確保している。学校教育法施行規則に基づき、教育情報を適切に公表している。環境や人権、安全面に配慮し、危機事象に関するマニュアルを整備している。

使命・目的の達成に向けて、理事会を置き、機動的な意思決定ができる体制を整備している。理事会の運営及び理事の選任を適切に行っている。学院長を置き、建学の精神の継承と浸透を図るなど、大学の使命・目的の達成のために継続的な努力をしている。

意思決定に際し、理事会及び評議員会が円滑に意思疎通と連携を行っている。教職員連絡会議を通じ、教職員の提案をくみ上げている。寄附行為等に基づき、評議員及び監事を適切に選任し、評議員会を運営している。また、監事はその職務を適切に行っている。

財務状況は、十分な内部留保を有しており、財務基盤を確立している。補助金申請や資金運用を実施し、外部資金の獲得を図っている。中期財務計画に基づく財務運営を行っている。

会計処理は、適切に実施しており、予算額と決算額とのかい離があるときは、補正予算を編成している。会計監査人の選任は、寄附行為に基づき、適切に行われている。会計監査は、公認会計士、法人監事及び内部監査人により厳正に実施している。

## IV 独自基準

基準 A. 社会貢献・社会との連携
A-1. 地域貢献の方針と体制
A-2. 地域貢献の取組み

**【概評】**

地域貢献に関する方針に基づき、学生にはボランティア活動への参画方法を周知し、1年次開講科目にて、ローカルで活動できる仕組みを構築している。また、地域貢献を円滑に進めるため、令和 2(2020)年度より、「地域貢献センター」を「地域・国際連携センター」と改組し、地域貢献事業を展開している。その成果は事業報告として学内所轄委員会にて点検・評価され、理事会へ報告し、改善につなげている。

地域貢献として、地域住民の健康相談事業、行政や各種団体へ専門委員としての教員派遣、図書館の開放、生涯学習支援としての公開講座、社会人を対象とした履修証明プログラムである「データヘルスサイエンス」の開講、ボランティア活動、大学間連携などさまざまな地域貢献に取り組んでおり、成果を挙げている。災害ボランティア活動については、「カトリックセンター」と「地域・国際連携センター」が協働で支援を行っており、教職員・学生が募金活動、被災地への派遣などボランティア活動を継続的に行っている。参加した学生は、ケアリングの要素や個人の尊厳を守る意味、人々の健康に向けた看護者としての使命などの学びにつながっている。

**〈優れた点〉**

○大学間連携として、久留米市内の高等教育機関と協働で実施した市民公開講座などに、教職員や学生が参画し、多数の参加者数を得ていることは、地域貢献活動の成果として評価できる。

基準 B. 国際交流
B-1. 国際交流の方針と体制
B-2. 国際交流への取組み

**【概評】**

「地域・国際連携センター」に国際連携部門を設置し、国際交流に関する方針を明確にした上で国際交流事業を展開している。「地域・国際連携センター」は、学長の指名した構成員で構成され、グループ法人の協力体制も整えており、国際交流を円滑に進める組織体制となっている。

大学は、東南アジア・東アジアカトリック大学連盟に加盟し、カトリック大学間の交流やローマ教皇庁立バンビーノジェズ小児病院との交流、ラオス及びタイにおける海外看護実習、フィリピンのカノッサカレッジにおける語学研修、JICA（国際協力機構）青年研修として中南米 5 か国より 9 人の母子保健管理分野の研修員を迎えるなどの国際交流を積極的に推進している。釜山カトリック大学校看護大学の国際看護実務実習の受入れ、韓国カ

## 聖マリア学院大学

トリック大学校看護大学・仁川カトリック大学校看護大学の日本研修受入れ事業を実施しており、実習・講義など体系的なプログラムを構成し、日韓の学生約 25 人が異文化交流を体験しており、これらは実践的国際交流としての取組みであるといえる。

## 特記事項（自己点検評価書から転載）

### **1. カトリック大学としての看護大学—ローマ教皇庁との連携**

キリスト教は世界3大宗教の1つと言われ、そのうちカトリックはローマ教皇を中心として全世界に15億人の信徒を持つ。しかし、日本における信徒数は人口の3%強に過ぎず、カトリック大学もわずか19校で、そのうち6校のみが看護学部を持つ。令和4(2022)年、11月29日にマリア病院と共にローマ教皇庁立バンビーノジェズ小児病院との協働事業提携を締結した。聖マリアグループの周年記念式典にあたっては教皇庁より、聖マリアグループ代表者各々に対し、感謝状の贈呈とPROECCLLESIA POTIFICE勲章が授与された。

聖マリアグループはキリシタンの殉教者を先祖に持つ一家族により創立され、その後4世代にわたり、多くの地域の協力者と共に保健医療福祉および教育の分野における、長年の地域・国際（特に途上国）への実践を通じて福音宣教を実践して来たことは世界にもまれにみる功績であるとのことで、教皇庁及びカトリック教会への多大なる貢献として表彰されたものである。キリスト教の人格の尊厳を最高原理とする生命倫理は国際法の基盤をなすものでもあるため、本学は教皇庁との連携を強固にし、さらに高等教育機関としての看護教育の質の維持に努め、グローバル社会の平和の構築に努めたい。

### **2. ロイ適応看護モデルとRoy Academia Nursology Research Center の活動**

ロイ適応看護モデルは、短期大学開設当初より現在に至るまで、約40年間に渡り本学の教育に取り入れられている。特に、看護学部開学後は4年間を通して段階的に深まるリベラル・アーツ教育の充実が図られ、モデルの哲学的前提・科学的前提・文化的前提の理解につながった。さらに、令和4(2022)年より開講した新カリキュラムにおいては、カリキュラムの中核にロイ適応看護モデルを据え、1年次から4年次まで段階的にモデルの理解や看護実践が深まるように教育が再構築された。また、最善・最新の看護を提供するために、ロイ適応看護モデルを持続的に研究する場として平成30(2018)年にRoy Academia Nursology Research Center (RANRC) が設立された。RANRCは、人々の苦しみを理解するための新たな看護知識を開発するために研究活動を促進し、ロイ適応看護モデルのさらなる発展に寄与することを目指している。メンバーは、Roy Adaptation Association International ConferenceにおけるWorkshopの運営、研究成果報告・受賞、論文執筆、病院看護師に対する研修会の企画運営、年1回のNursology Letterの発刊に取り組んでいる。近年では、有志の学生がRANRC-Student groupを構築し、活動に参画している。

### **3. 臨床と大学の協働・連帯により学生の看護実践能力を育成する教育方法の試み**

本学の臨床教育の殆どは建学の精神を共有する聖マリア病院で行われることから、聖マリア病院の看護職員の中で大学院を修了している者に対して臨床看護教授・准教授・講師の称号付与に関する規程を設け付与している。また、実習教育担当者に対しては、継続教育の一環として実習前の学生の準備状況を把握することを目的に、実習前に開講される教科目「スキルラボ臨床レベル3 ; OSCE」への参加を実施している。さらに、平成29(2017)年度からは、臨床と大学の協働による最適な臨床教育/学習環境と学修モデルの構築を目指して、聖マリア病院、聖マリアヘルスケアセンターの看護部長らと協働し、教育モデル病棟を設置した。教育モデル病棟で実習した学生は、「病棟に受け入れられている」「看護学への興味が高まった」と学修環境を高く評価している。

